

サポートツール全国キャラバン2010「教材教具研修会」in 秋田

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2010年5月30日

秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎 会議室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」

【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせて有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた支援に繋がる子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、身近な教材・教具を活用していく具体的な支援の普及を目的に研修会を開催している。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めている。

2009年度の教材教具研修会は、2009年11月1日新潟市、2010年2月21日佐賀市にて開催し、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めている。

今回の秋田市での開催は、秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」が中心になって準備を進めてきた。学校現場で指導にあたる多くの小学校教員と秋田県の作業療法士など多方面における専門家と連携し、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくためにも、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する研修会を企画した。



【研修会開催要項】

日 時：2010年5月30日（日）10：00～16：30（9：30受付）
会 場：秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎 会議室
〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2

プログラム

1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏
(特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員)

2、講演2 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏
(日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・
大阪市更生療育センター作業療法士・大阪府作業療法士会発達部門副代表)

3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」



主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会
共 催：秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」
後 援：秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、
社団法人日本作業療法士協会、日本感覚統合学会、秋田県作業療法士会
事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415
TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net
URL：http://www.jpald.net/

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どもの持つトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、

◎ 保護者（アインシュタイン会員）

- ・現場からの事例を挙げてのお話は大変わかりやすく参考になった。
もう少しじっくり聞きたい。もっと早い時期に聞きたかった。
- ・子供の特性に合った支援によって、難しいと思えるような問題解決ができるということがわかり、希望が持てると思いました。
- ・アスペルガーの子供の親ですが、今まではパニックを起こされては困るので本人が嫌な事をやらせないでいました。今日のお話の中で、「ルール」を守る子がアスペルガーの子供の特性ですと聞いて目からウロコでした。本日からさっそく「ルール」作りをしたいと思います。
- ・出来ないという事の中に、たくさんの原因が有ることがわかりました。特に小学生の時期の支援が大切だという事を、小学校の先生達に理解していただきたいと思いました。

◎ 保護者（その他）

- ・とてもわかりやすく聞かせて頂きました。子供にあてはまる事が多かったです。
支援の手がかりとしてとても参考になりました。

◎ 教員（小学校）

- ・不正確さが明確になりましたが、時間をもう少し取って、十分講演していただきたいかった。
- ・理論ではなく、実際の事例について話を聞くことができたのがとても良かった。明日からすぐに現場で使える情報がたくさんあったので自分の支援の幅が広がる気がした。

◎ 教員（中学校）

- ・特性の理解がとても深まった。まちがった考え方をしている子どもの様子がよくわかった。

◎ 教員（養護学校）

- ・特徴に目を向けた支援が大切だということが大切だというのが、大切だと実感した。

今後の支援に活かしていきたい。

◎ 教員（教育相談員）

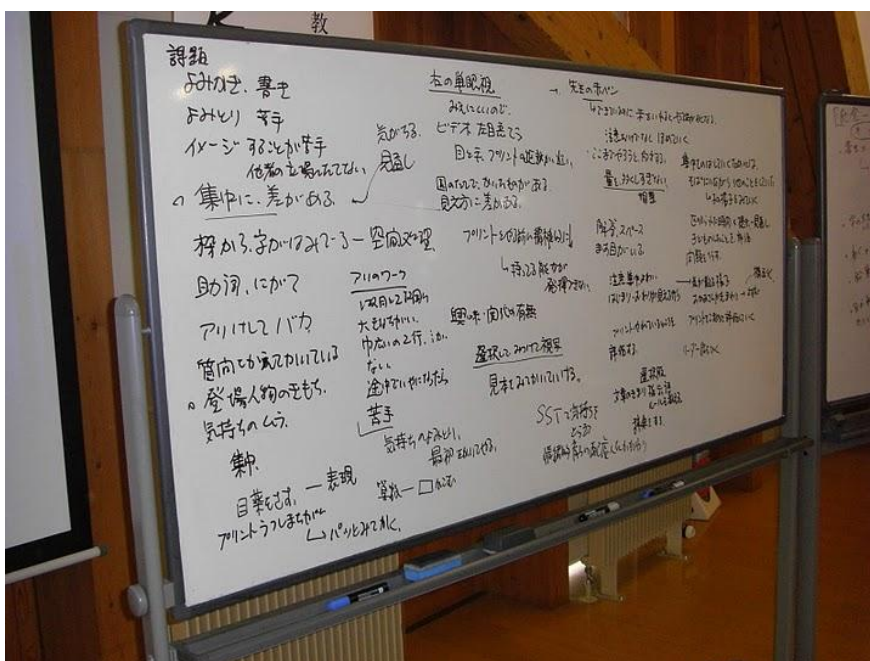
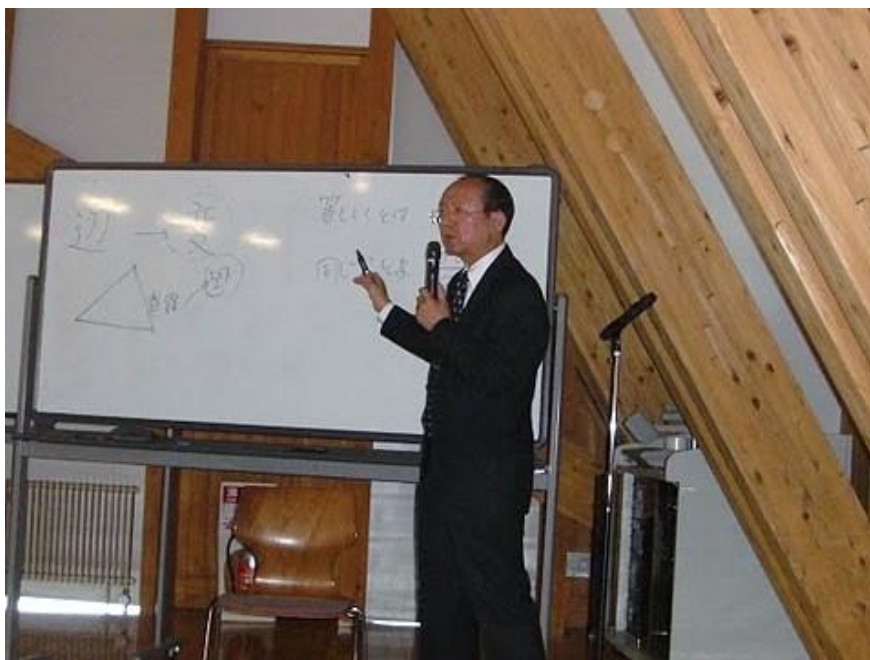
- ・とても具体的なお話だったので、大変ためになりました。
検査などをすることも必要ですが、それ以前に、普段のノートやプリントなどから見える部分がこんなにもあるとは・・・。今日はどうもありがとうございました。

◎ その他（大学院生）

- ・個々のサポートが具体例を元に知ることが出来、大変勉強になりました。

◎ 作業療法士（医療）

- ・改めて、理解のために子供をしっかりみることの大切さを実感しました。
・子供の実像を把握する難しさ、大切さが伝わりました。



「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

嶋谷 和之 日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター
大阪市更生療育センター 作業療法士
(社)大阪府作業療法士会 事業部発達部門副代表

ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難に気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。

今回の研修のねらいは、以下の2点である。

- ・ 普段何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難と重ね合わせることで、子どもを理解し手立てにつなげるきっかけとする。
- ・ すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。

また、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を説明し、後で行う事例分析のワークにつなげることも目的とした。

内容

①作業療法士の視点について説明を行った。

②感覚運動機能について、以下の2点についてより具体的に説明した。

- ・ 安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
- ・ 感覚情報は食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素であると捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の中に溶け込むように提供していくという視点を説明した。

③大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」作業療法士からの提案から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。

- ・ 姿勢の保持が難しい
- ・ 筆圧が強すぎる、弱すぎる
- ・ 食べこぼしが多い（箸がうまく使えない）
- ・ はさみや定規がうまく使えない。

④事例を通して子どもの困難、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。

- ・ 姿勢の保持に困難のある事例。低緊張に加えて、自分の身体の状態を把握しづらいことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
- ・ 椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。圧や運動感覚の欲求が高いことが背景的な要因。感覚の欲求を満たすことができるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、授業をより集中して受けることができた。
- ・ 鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。指先の感覚が分かりにくい指先に力が入りにくいことが背景的な要因。三角の鉛筆グリップを付けることで、鉛筆との接点が増え、鉛筆を捉えやすくなった結果、三指で鉛筆を持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。
- ・ 指先で箸を操作できずクロス箸になり、何度もつまみ直しをしている事例。手指の巧緻性の未

熟さが背景的な要因。子どもに応じた補助具をつけることで、指先で箸を操作しつまむことができるようになった。

- ⑤子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫や細かな段階付けにつながっていくことを説明した。
- ⑥教材教具を展示した。ちょっとした工夫で活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

【展示物】

- ・ 斜面台
- ・ ハートリーフクッション
- ・ 滑り止めシート
- ・ 滑り止めを貼った定規、分度器
- ・ 紙の下に滑り止めシートを敷くことで、
コンパスが操作しやすくなる工夫例
- ・ 滑り止め加工した三角鉛筆
- ・ 太い三角鉛筆、色鉛筆
- ・ 各種の鉛筆グリップ
- ・ 自由樹脂で加工した鉛筆グリップ
- ・ 消えやすい消しゴム
- ・ 工夫を施した箸



ワークショップ 報告

ワークショップは7名～8名のグループで行いました。

教育関係者と医療関係者と保護者を均等にグループ分けしたかったのですが、秋田では医療関係者の参加が少なかったため、教育関係者と保護者が大半を占める構成になってしまいました。

小学校4年生の男子児童の、国語のプリントと家庭学習のノートのプリントが配られ、家庭学習の様子のビデオを見ました。そのプリントとビデオから「子どもの特性」を想定し、支援を考えるという課題をみんなで行いました。

事前に山田先生と嶋谷先生の講演を聞いて、なるほどなるほどと思っていたのですが、いざ、プリントとビデオから「子どもの特性」を想定すると、断片的な項目しか浮かんで来ませんでした。

グループ毎の討議で、他の人から色々な考えを聞くことができ、ピンとはずれの考えもありましたが、グループで「事例研究」をすることの大切さを実感しました。グループ討議の後、各グループの発表があり、山田先生と嶋谷先生のコメントをいただきました。

どうしても、保護者や教育関係者からはお互い自分の立場での考えが多く、本来の「子どもの特性」に辿り着くのはかなりの練習が必要なることを痛感しました。また、親の立場と教育関係者の立場の両方を知っているコーディネーターの存在の大切さを痛感しました。

今後、このような実践的な学習の場を秋田でも継続できれば良いと思いました。



【アンケートのまとめ】

回収枚数

- (1) 保護者 アインシュタイン会員 6枚 その他 4枚
- (2) 教員 幼稚園 1枚 小学校 7枚 中学校 3枚 高等学校 1枚
養護学校 4枚 その他 5枚
- (3) 作業療法士 医療 2枚
- (4) その他 1枚 (計 34枚)

講演1

◎ 保護者 (アインシュタイン会員)

- ・現場からの実例を挙げてのお話は大変わかりやすく参考になった。
もう少しじっくり聞きたい。もっと早い時期に聞きたかった。
- ・子どもの特性に合った支援によって、難しいと思えるような問題解決ができるということがわかり、希望が持てると思えました。その特性を見抜けるか・・・それがかぎでしょうか。それもまた難しいのかなと思います。見抜けるよう勉強しようと思います。
- ・アスペルガーの子どものお母さんですが、今まではパニックを起こされては困るので本人が嫌な事をやらせないでいました。今日のお話の中で、「ルール」を守る子がアスペルガーの子どものお母さんの特性ですと聞いて目からウロコでした。本日からさっそく「ルール」作りをしたいと思えます。
- ・今までわからずにいた、ちょっとしたサポートで子どもが変わるという事例がわかって良かった。今後につなげていけるようにしたい。
- ・出来ないという事の中に、たくさん原因が有るとことがわかりました。特に小学生の時期の支援が大切だという事を、小学校の先生達に理解していただきたいと思えました。

◎ 保護者 (その他)

- ・とてもわかりやすく聞かせて頂きました。子どもにあてはまる事が多かったです。支援の手がかりとしてとても参考になりました。
- ・具体的でわかりやすく、参考になりました。
- ・子どもが楽しみながらも学習できる、そしてそれがコミュニケーションにもつながるいいきっかけになりました。

◎ 教員 (小学校)

- ・不正確さが明確になりましたが、時間をもう少し取って、十分講演していただきたかった。
- ・理論ではなく、実際の事例について話を聞くことができたのがとても良かった。明日からすぐに現場で使える情報がたくさんあったので自分の支援の幅が広がる気がした。
- ・具体的指導の数々で有り難いと思えました。
- ・とてもわかりやすく、大枠でとらえると、なるほどそうかと思えることがあった。
- ・子どもの九九を向上させたら、書写の時間におちつきが出てきたなど、多くの波及効果があることにおどろいた。
- ・昨年、山田先生の講演を聞き、またお話を伺いたいと思っていたので、とても貴重な機会でありがたく思います。同じ通級指導教室の担当で、日々の指導に即生かしていけるお話でした。子どもの視点にたち、子どもの特性に応じた対応をしていきたいと思えます。

◎ 教員 (中学校)

- ・特性の理解がとても深まった。まちがった考え方をしている子どもの様子がよくわかった。
- ・子どもの認知特性を知ることの大切さがよくわかりました。

◎ 教員 (高等学校)

- ・児童一人一人の具体例が大変参考になりました。つまずきの原因が何かアセスメントしながら評価し、有効な支援を行っていることが、今後の支援にすぐ生かせる内容でした。
- ◎ 教員（養護学校）
- ・具体的な支援方法について、ご教示いただき、たいへん参考になりました。すぐに活用できることがたくさんありましたので、ありがたかったです。
 - ・特徴に目を向けた支援が大切だということが大切だというのが、大切だと実感した。
 - ・テンポ良くたくさん情報がつまったお話でした。
- ◎ 教員（特別支援 支援員）
- ・今までの講演の中で一番でした。事例の中での対応の仕方、又、子どもの困り感の原因に問題があるとの事、日常の支援に役立てていきたいと思います。
 - ・具体例をあげて説明してくださり、とてもためになりました。
- ◎ 教員（教育相談員）
- ・とても具体的なお話だったので、大変ためになりました。
検査などをすることも必要ですが、それ以前に、普段のノートやプリントなどから見える部分がこんなにもあるとは・・・今日はどうもありがとうございます。
- ◎ その他（大学院生）
- ・個々のサポートが具体例を元に知ることが出来、大変勉強になりました。
- ◎ 作業療法士（医療）
- ・改めて、理解のために子どもをしっかりみることの大切さを実感しました。
 - ・子どもの実像を把握する難しさ、大切さが伝わりました。

講演 2

- ◎ 保護者（アインシュタイン会員）
- ・折角ビデオも持ち込んでいただいたので、それを使用しながらの講話をききたかったです。作業療法士さんが、感覚統合の分野で特別支援に関わっていくことは、今後も不可欠だと思いますが、秋田ではまだまだ認知度が低いようです。こういった分野で支援できる方が増えてほしい。
 - ・人の行動、行為にはそれなりの理由があるというお話に納得しました。理解しようとする努力が必要だと感じました。その子に合った教材・教具によって、学習・生活が少しずつでも楽になることは嬉しいことです。
 - ・何かの動作をするのに筋肉のはりが必要である事がわかりました。学習に集中するのにも、姿勢の安定が大事だという事も本日の気づきでした。
 - ・人の行動には、それなりの理由があるという事に気付かされ、そういう見方で子どもの事を見ていこうと思いました。
 - ・具体的な支援方法が提示されており、大変参考になりました。
- ◎ 保護者（その他）
- ・お箸を使うことが苦手なのですが、良い手がかりがみつかりました。ありがとうございます。
 - ・今後、絶対使ってみたいものばかりでした。すごく参考になりました。
 - ・体の姿勢を保つためのクッションについて勉強になりました。
- ◎ 教員（小学校）
- ・様々なツールがあることがわかりました。その子に合った物を見つけたいです。
 - ・かわりのある子のために、いごこちのよいイスを用意してあげたいと思いました。
ほうきの使わせ方でも先生からアドバイスをいただき、早速、月曜日からやらせてみます。
 - ・感覚統合は前から興味があったので、実際の作業療法士の方の話がきけてよかった。
 - ・小学校の現場では感覚統合の考え方が未熟（公の研修が全くない）なので、今日は本当に勉強になりました。私は情緒学級の担任ですが、在籍のA君にあてはまる事が一杯あり、明日からの

指導に使えます。ありがとうございました。

- ・ 自然に動いている動作や体勢からこんなに細かくわかるのかと驚いた。
- ◎ 教員（中学校）
 - ・ 感覚運動という視点から子どもをとらえるという機会が今までなかったので、今後、子どもの見方に幅ができそうです。
- ◎ 教員（高等学校）
 - ・ 発達障害の子どもへ、作業療法士、作業療法という立場からの講演で、今まで気づかなかった見方で生徒を見ていけると思いました。
- ◎ 教員（養護学校）
 - ・ OT、PT、ST支援を在任校でも取り上げていますが、OTさんの考え方の基本がよく分かりました。今後、支援を受ける時に役立ちそうだと思います。（学校の先生は、じれったいなーと思わずに済むかも・・・とも）
 - ・ 作業が様々な効果があること。また、姿勢や体の動きとの関連があることがわかった。
 - ・ ゆったりとした話し口調の中、子どもをしっかり見る目、視点の大切さを教えていただきました。
- ◎ 教員（特別支援 支援員）
 - ・ すべり止めシート最高です。いろいろと勉強していきたいと思いました。
 - ・ 今日からでもやってみたい事がたくさんありました。
 - ・ いつもと違う視点のお話が聞けて興味深かった。
 - ・ 自分の受け持つ子どもさんにあてはまる事があり、ためにはなりましたが、実際は先生が決める事なので、お話ししたいと思いました。
- ◎ 教育（教育相談員）
 - ・ 教具という環境面でのフォローの大切さを感じました。
- ◎ 作業療法士（医療）
 - ・ OTとして割と日常的、身近な物品の紹介にフロアから感嘆の声が出ていたことにびっくりしたのと同時に、まだまだ実現場で道具（自助具）が利用されていない現実を知りました。
 - ・ 実際の場面の変化が見られて参考になりました。
- ◎ その他（大学院生）
 - ・ 作業療法の視点からのサポートというものを今まで知らずに来た為、今回の講義を受け、これからの自分の子どもへの支援にとっても参考になる部分がありました。

ワークショップ

- ◎ 保護者（アインシュタイン会員）
 - ・ 教育現場に居る方が多かったようですが、その先生の中でも、色々な考えの方がおられるんだなーと感じました。これでは、特別支援の現場はまだまだ大変で、その先生の対応によって、その困り感から抜け出せないと感じた。
 - ・ テストの答案から子供の特徴が見えてくるのがよくわかりました。まちがいはそのままに書いておくとよいですね。
 - ・ 実際の事例を見て課題と課題解決方法を話し合う事は大変参考になりました。本日の内容は全て家に帰ってから実行しようと思います。
 - ・ 1つの事でも色々な方面から見ることを学びました。
 - ・ 具体的な事例をあげていただき、それに対し話し合いをするという実践的な進行で、興味深く参加させていただきました。
 - ・ テストを見ながら苦手なこと、どう改善していけばいいのかと考えることは初めてで、いろいろな人の意見も聞けて、楽しくできました。
- ◎ 保護者（その他）

- ・ 一人の子どもでもいろんな面から問題があることを改めて、教えられました。実践的でわかりやすかったです。
- ・ 分析するって難しいですね。自分の子ともっと向き合っていこうと思いました。
- ◎ 教員（幼稚園）
 - ・ 2つ一緒に考えて支援していくことを教えて頂いてありがとうございます。
- ◎ 教員（小学校）
 - ・ プリントやテストの分析、具体的に示していただき勉強になりました。
 - ・ 実りの大きなワークでした。事例研が一番です。毎年やれたらいいですね。勇気を出して事例提供してくださった方、ありがとうございました。
 - ・ 問題の間違い、書字と姿勢を関連させて考えるという視点で子どもを見ていく方法がわかり、とても良かった。
 - ・ いろいろな立場の人がいて、面白かったです。各班からの発言のあとに、両先生の立場から、A君（ビデオでの男児）をどう見るか、どう指導を行うかが、コメントがあって、良かったです。1つのケースに何十人もの人が考えるということが良かった。
 - ・ テストのまちがいから、こんなにいろんなことがわかるのかと勉強になった。
 - ・ 子どもの状況の見とりはとてもためになった。作業療法士の視点には驚いた。
 - ・ 多面的に情報を集め、トータルで子どもの姿を捉えていくことの大切さを改めて感じました。
- ◎ 教員（中学校）
 - ・ 子どもの行為から何が読みとれるか、どうとらえたらいいのか、ということが分かってきました。お二人の先生がそれぞれの立場からお話してくださるのも、大変参考になりました。グループの中に様々な立場の方がいて、いろいろな視点から考えることができたのも良かったです。
- ◎ 教員（高等学校）
 - ・ 10グループでした。グループの中に事例の保護者がいて、より深まった話し合いができました。事例対象になるということで、大丈夫だったかな？と心配な面がありましたが、家庭での様子がわかって参考になりました。
- ◎ 教員（養護学校）
 - ・ 具体的にどう見ていけばいいのかわかりました。実践します。ありがとうございました。
 - ・ いろんな立場の人の話をきけて、そして語り合えて良かった。
 - ・ 時間が足りないくらいで充実していました。
 - ・ もっと勉強しなければならないと思った。
- ◎ 教員（特別支援 支援員）
 - ・ 考えるワークショップでとても良かったです。
 - ・ 自分にはない考えを聞くことが出来て良かったと思う。山田先生、嶋谷先生のコメントも大変役に立ちました。
- ◎ 教員（教育相談員）
 - ・ 見えたと思っていた部分を、さらに外からもっと大きなワクで見る必要があるのだなあと感じました。大変勉強になりました。
- ◎ 作業療法士（医療）
 - ・ 多業種の方々の視点が参考になりました。ありがとうございました。
- ◎ その他（大学院生）
 - ・ 色々な立場の方のご意見がきけて、みんなで子どもへの支援を考えることの大切さ、勉強させられる部分が多くありました。

「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望むことやその他意見・感想

- ◎ 保護者（アインシュタイン会員）

- ・ 日曜日にもかかわらず、多くの参加者がいたのは、本当にうれしいこと。秋田県の特別支援教育が今後、変わりうる可能性を感じた。気づいた人から発信し、実践していくことで、もっと良い方向に変わっていくことを望んでいます。
 - ・ 保育や教育に関わる全ての人達が発達障害のことを正しく理解できるような制度ができればと思います。「就労」「自立」まで支援体制が整うよう希望します。
 - ・ 6才まではホーラーズなど、その子の特性に合ったプログラムで療育をしてもらえますが、小学校から成人まで、一貫した支援プログラムが必要だと思います。現在の教育では、アメリカなどより30年くらい遅れていると聞いていますし、支援システムの構築を早期にお願いしたいです。
 - ・ 大学進学はもちろん、就職に対しての手厚い援助をお願いしたいです。
 - ・ 学校と共通認識をする為にも、もっと、学校側の特別支援教育の制度を整えてほしいです。
- ◎ 保護者（その他）
- ・ 秋田にも山田先生のような方がいてくれたらと痛感しました。
 - ・ もっと学校での理解と対応、各教師の対応の仕方についてスキルアップをのぞみます。認識不足を感じます。特学の先生だけが知っておくことではないと思います。
 - ・ 学校の対応に不満があります。学校の先生にも勉強してほしいです。
- ◎ 教員（小学校）
- ・ 本当に勉強になりました。ありがとうございました。
- ◎ 教員（中学校）
- ・ ありがとうございました。
- ◎ 教員（養護学校）
- ・ 専門性、資質を高めていきたいです。
 - ・ 前日の申し込みをOKして下さい感謝です。今後ともよろしくお願いします。
- ◎ 教員（支援員）
- ・ 今日は参加させて頂きとても感謝しております。本当にありがとうございました。
 - ・ 小学校の中の特支学級の担任になる先生は、ほとんどは障がいを理解しておらず、学習方法も特別なものは使わず、小1で使うプリントをくり返し使ったりと工夫が見られない。専門の知識を持った先生を担任にすべきではないかと思う。
- ◎ その他（大学院生）
- ・ 今後の自分の活動に役立つ考え、ご意見を聞かせて頂きありがとうございました。参加することが出来て本当によかったです。

以上



